



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六星同窓会
印刷所
印刷
甲印
能登

創立百四十周年記念事業を終えて



会長

大藏 捷直

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日ごろより同窓会の発展のためにご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、母校が昨年創立百四十周年を迎え、多くの方々から温かい励ましと多大なご支援・ご協力をいただき、学校、PTA、同窓会が一体となって記念事業を進めてきました。お陰様で

計画いたしましたすべての事業を滞りなく終えることができました。ここに、ご協力いただきました皆様に重ねて深甚なる感謝を申し上げます。
記念事業の一つとして、昨年の二月に会員名簿を一五年ぶりに発刊いたしました。

そして、九月二十一日に記念式典、記念講演、記念祝賀会を実施いたしました。白山市松任文化会館における記念式典には石川県知事名代竹中博康副知事をはじめ谷内律夫県議会副議長、山田修路参議院議員、山田憲昭白山市長、田中新太郎県教育長、歴代校長、各高等学校長、地元中学校長など多数の来賓のご臨席を賜り、盛大に式典を挙行することができました。

山崎恵校長が「日本有数の農業高校としての歴史と伝統を持つ母校と石川の地に誇りをもつて力強く生きていく生徒の育成に邁進していきたい」と式辞を述べられた。竹中博康副知事のご挨拶、谷内律夫県議会副議長、在校生が胸を張り声高らかに国歌、校歌を斉唱してくれました。記念事業では、本校の歴史と伝統、そして、翠星高等学校をご紹介するために、「創立二四〇周年記念誌」を発刊しました。また六星同窓会からは新しい校旗のご寄贈をいただきました。

このような記念すべき年を迎えまして、本校の近況をご報告いたします。ここ、数年来、部活動への全員加入による学校の活性化に取り組んでおります。その成果もあり、今年度は部活動、学校農業クラブ活動、学校行事等で、生徒たちの健闘が随所に見られました。まず、野球部が春の高校野球春季石川大会でシールド杯を破り三回戦まで進出しました。さらに夏の大会では全校応援を背に

長と山田修路参議院議員よりご祝辞をいただき、私も記念事業委員会を代表してご挨拶をする機会をいただきました。

式典の最後には、在校生を代表して、沢辺小晴さんが「諸先輩方から受け継いだ歴史と伝統というすばらしいバトンを次の人たちに渡していきたい。そして諸先輩と同様、社会に貢献できる人間として本校を巣立って行きたい」と力強い誓いがあり、厳粛の内に幕を閉じることができた。

百四十周年記念誌も発刊され、来賓の皆様と生徒一人一人にも配布されました。記念誌にはこれまでの百四十年の集約と松任農業高校から翠星高校に生まれ変わってからの教育活動の変遷、生徒の活動の様子、さらに地域とともに歩む取り組みの一部が紹介されており、多くの方々にご一読いただければ幸いです。

記念講演会では、可能性の無視は最大の悪策」と題して立正大学客員教

授の高野誠鮮氏より示唆に富んだ貴重なご講演をいただきました。
また、松任高校時代から引き継がれてきた校旗が朽ちかけてきたので、新調して寄贈しました。立派な出来映えであり、未永く大切に使用していただきたいと思っております。

記念祝賀会は、グラントホテル白山において、山田憲昭白山市長をはじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、同窓会会員が遠くは関東、関西、東海から駆け参じ、一同に会して盛大に行われました。

この百四十周年という一つの節目は、さらに次の一五〇年、二〇〇年に向かって、力強く歩み出す出発点だと思っております。同窓会として、今後も母校の発展のために微力を尽くしていきたいと考えております。

最後になりますが、同窓会会員の皆様のみならずのご活躍とご健勝そして母校のさらなる発展をお祈り申し上げます。

創立百四十周年からの更なる飛躍



校長

山崎 恵

同窓生の皆様には、ますます、ご健勝のことと、お喜び申し上げます。また日頃より本校の教育にご理解とご支援を賜りまして誠に有り難うございます。

部長様をはじめ会員の皆様には心温まる歓迎をいただきまして誠に有り難うございました。

さて、今年度は六月に同窓会本部、東海支部、七月に金沢支部、十月に関西支部、十一月に関東支部の総会が開催されました。各支部では、支

今年度、本校は創立百四十周年を迎え、九月二十二日に白山市民文化会館において多数の来賓のご臨席をいただき、「創立一四〇周年記念式典」を盛大に挙行することができました。記念式典は厳粛な雰囲気で行

行し、在校生が胸を張り声高らかに国歌、校歌を斉唱してくれました。記念事業では、本校の歴史と伝統、そして、翠星高等学校をご紹介するために、「創立二四〇周年記念誌」を発刊しました。また六星同窓会からは新しい校旗のご寄贈をいただきました。

一回戦を見事な勝利で飾り、金沢市民野球場に全校で歌う校歌が響きました。高校総体・高校総文では、女子バレーボール部が二回戦へ進出、ソフテニス部がダブルスで三回戦へ進出、サッカー部も一勝をあげ、陸上部はやり投げで北信越大会へ出場しました。新人大会では男子ソフトテニス部が団体ベスト八、ダブルスがベスト一六、卓球部、女子バレーボール部が二回戦へ進出、サッカー部も一勝し、バドミントン部は男子個人戦で四回戦まで進出するなど目覚ましい活躍がありました。学校農業クラブ活動では、食品科学研究会が日本学校農業クラブ全国大会のプロジェクト発表会において、二年連続の優秀賞、しかも、今年度は二チームが優秀賞を受賞する快挙を成し遂げました。

学校行事では全国産業教育フェアの農業高校の展示、即売、世界農業遺産シンポジウム等での積極的な活動が見られました。また同フェアのフライングコンテストにおいて、園芸福祉研究会の部員が銅賞と審査員奨励賞の受賞に輝きました。
本校の歴史を振り返りますと、明治、大正の農学校時代、そして、松任高等女学校、総合制松任高等学校、松任農業高等学校と、質実剛健、新進気鋭の気質が受け継がれ、学生たちのすばらしい活躍がありました。六星健児、松農健児の誇りと気質は、翠星高等学校の在校生にも受け継がれ、部活動や農業クラブ活動での活躍に繋がっております。今後とも、母校の更なる飛躍へのご支援をお願いします。

創立140周年記念特集



駐車場係り



受付の様子



式典の様子



来賓の方々



司会生徒

(左) 山口 忠和 PTA会長 (中央) 山崎 恵 校長 (右) 大藏 捷直 同窓会会長



大藏 捷直 同窓会会長



山崎 恵 校長



鷺澤 勝 教頭



生徒代表挨拶 沢辺 さん



石川県副知事 竹中 博康 氏



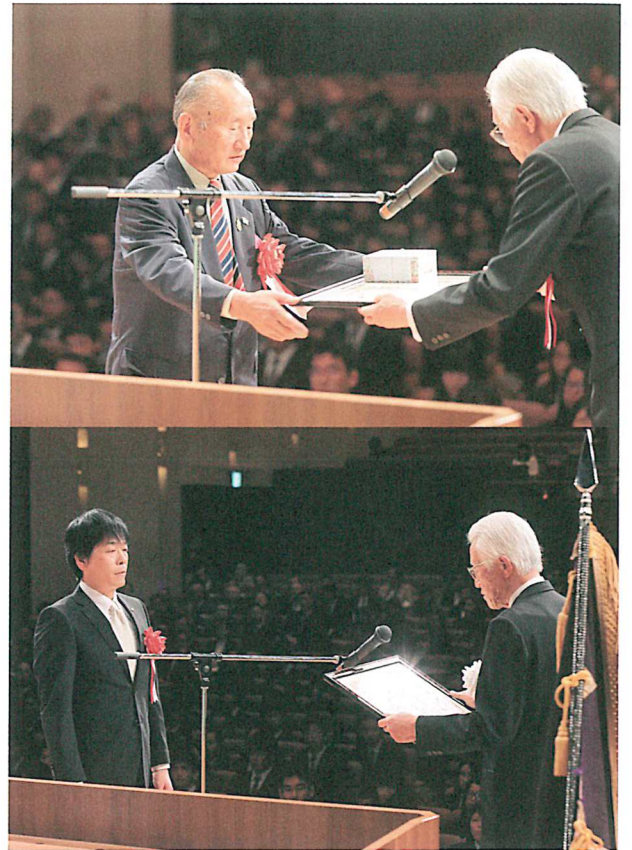
石川県議会副議長 谷内 律夫 氏



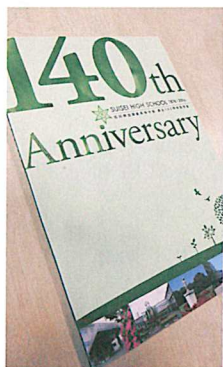
参議院議員 山田 修路 氏



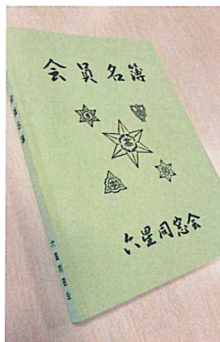
白山市長 山田 憲昭 氏



感謝状贈呈 (記念事業特別協賛者、永年勤続者)



記念誌発刊



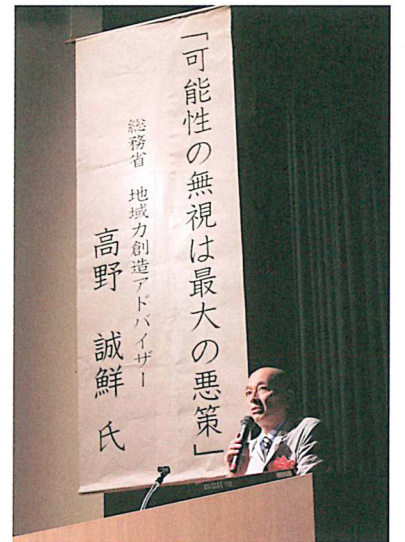
同窓会名簿発刊



生徒の様子



県外支部交流活動 (関東、東海、関西)



記念講演
講師 総務省 地域力創造アドバイザー
高野 誠鮮 氏



校旗の新調



案内看板の設置

創立140周年記念

平成28年9月22日(木・祝)

記念式典

会場：白山市松任文化会館

一〇〇〇〇〇一〇〇〇〇

式次第

- 1 開式の辞 鷺澤 勝教頭
- 2 国歌斉唱
- 3 学校長式辞 山崎 恵校長
- 4 石川県知事挨拶 代理 竹中 博康副知事
- 5 記念事業委員会委員長(六星同窓会会長)挨拶 大藏 捷直同窓会会長
- 6 来賓祝辞 (1) 石川県議会議長 代理 谷内 律夫県議会議長 (2) 参議院議員 山田 修路氏 (3) 白山市長 山田 憲昭氏
- 7 来賓紹介 石川県知事 代理 石川県副知事 竹中 博康氏 石川県議会議長 代理 石川県議会議長 谷内 律夫氏 参議院議員 山田 修路氏 白山市長 山田 憲昭氏 石川県議会厚生文教委員会副委員長 安居 知世氏 石川県議会議員 作野 広昭氏 石川県議会議員 横山 隆也氏 石川県議会議員 車 幸弘氏 石川県議会議員 田中 敬人氏 佐々木 紀 衆議院議員代理 事務職員 山田 勝裕氏 岡田 直樹 参議院議員代理 秘書 丹後 智宏氏

宮本 周司 参議院議員代理 秘書

明姓ひろみ氏

石川県教育委員会教育長 田中新太郎氏

祝電披露

8 感謝状贈呈

(1) 記念事業特別協賛者 授与代表 前田 勝紀氏

(2) 永年勤続者 授与代表 権谷 和茂教諭

生徒代表の言葉 三年 沢辺 小晴

10 校歌斉唱

11 閉式の辞

12 感謝状贈呈

感謝状贈呈

1 記念事業特別協賛者(五十音順) 大藏 捷直 北野久太郎 四十万谷 邦彦 前田 勝紀 南京子 宮永光雄 山崎 恵

2 永年勤続者(五十音順) 上口 文治 小杉 克実 権谷 和茂 滝平 路明 中川 悦幸 西野 裕子 長谷 良弘 林 文代 宮田 映里

記念講演会

講演時間 一一・二〇〇一・二二・五〇

講師：高野 誠鮮氏

演題：可能性の無視は最大の悪策

講師略歴

たかの・じょうせん

一九五五年 石川県羽咋市太田町生まれ

・日蓮宗 本證山 妙法寺 第四十一世住職

・日蓮宗 妙成寺 統括顧問

・総務省 大臣委嘱地域力創造アドバイザー

・地方創生アドバイザー

・立正大学客員教授/新潟経営大学特別客員教授

(歴任)

・元地方公務員(羽咋市文化財室 室長 平成二十八年三月定年退職)

・金沢大学非常勤講師(平成六年〜平成十八年)

・法政大学エクステンション講座、早稲田大学等の非常勤講座等を担当(平成二十一年、二十二年)

(経歴)

昭和五十九年四月〜羽咋市勤務(臨時職員) 平成三年、任用委員会で吏員採用

昭和五十九年「UFOでまちづくり」を羽咋市で勝手に開始

平成六年 TOYP大賞受賞(石川)

平成十三年二月二日付 毎日新聞コラムで「スーパー公務員」と立川志の輔師匠を紹介

平成十四年「Time」誌で活動が特集される

平成二十年六月二十五日、増田総務大臣委嘱による総務省地域創造アドバイザーとなる

平成二十五年 田村明まちづくり大賞 受賞

平成二十七年十一月立正大学モラリす賞受賞他(主著等)

「ローマ法王に米を食べさせた男」(講談社) など多数。

記念祝賀会

時間 一七・〇〇〜

場所 グランドホテル白山

祝賀会場：グロリーホール

1 開宴の辞

2 同窓会長挨拶

3 学校長挨拶

4 PTA会長挨拶

5 来賓祝辞挨拶

6 乾杯

7 テーブルスピーチ

※ オープニングセレモニー

1 記念式典の開催

2 同窓会名簿発刊

3 創立140周年記念誌発刊

4 校旗の新調

5 県外支部交流活動(関東・東海・関西)

式辞

石川県立翠星高等学校長 山崎 恵

本日ここに、石川県副知事 竹中 博康様 石川県議会議長 名代 石川 川議会議長 谷内 律夫様 参議院議員 山田 修路 様 白山市 長 山田 憲昭様 をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り、創立百四十年記念式典を盛大に挙行できま

すことは至上の喜びであります。また、本校の発展に様々なご支援をいただいております、県当局の皆様や本校振興会の関係者、地域の皆様にも、この場をお借りしまして、深く感謝し、お礼申し上げます。

本校は、明治九年十二月、石川県勸業所において農学科が開設されたことを起源としています。同時期には、北海道大学の前身である札幌農学校で近代的な農業教育がはじまっています。その後、明治、大正、昭和の時の流れの中で、その地を金沢から羽咋火打谷、小松、松任へと移し、校名も、石川県農業講習所、石川県農学校、石川県立農学校、石川県立松任農学校、石川県立松任高等学校、石川県立松任農業高等学校と改称されます。そして、時代は平成へと移り、日本の経済や農業を取り巻く社会情勢に対応した農業高校の在り方を模索する中で、平成十二年に全国で初めて単位制を導入した新しいタイプの農業高校として、石川県立翠星高等学校へと改編されました。

本校は、幾多の変遷をたどりながら、農業教育を通して培われる「農の心」を連綿と受け継ぎ、農業高校としての歴史と伝統を守り、本

年、創立百四十周年を迎えることができず。

現在、本校では農業高校として、時代の先を捉え、地域を担う人材の育成を目指した専門教育を展開すると共に、単位制を活かした学習システム、習熟度別学習、個別指導の充実など、個々の生徒の能力を最大に伸ばさせる体制も確立し、その成果も十分に表れてきております。

本校では、農作物の栽培、食品の製造・分析、造園、農業土木、生物活用などの専門的な知識や技術が身に付きます。また自然との触れ合いを通して、生命への感動や成長の喜び、弱者への優しさや思いやりの心が育ちます。さらに、暑さ、寒さの中で実施されることもある、総合実習や課題研究では、協働する意識や忍耐力、自ら課題を発見し、解決していく力などが養われます。

これからの時代は、「主体的に課題を発見し、解決に導く力、リーダーシップ、創造性、忍耐力、感性、思いやり、コミュニケーション能力、多様性を受容する力」などの資質・能力が求められます。これらの力は、本校での三年間の農業教育を通して、一人一人に身につけていく力、そのものであります。

生徒諸君には、本校において、日々の学業、部活動に一層励み、良き社会の形成者となつてくれることを確信しております。

私ども教職員は、日本でも有数の歴史のある農業高校としてのすばらしい伝統を受けて、母校と石川の地に誇りを持ち、力強く生きていく生徒の育成に、一丸となり邁進する所存であります。

終わりに、本日ご出席の皆さま方

に深く感謝し、本校のさらなる飛躍をお誓い申し上げます。

挨拶

記念事業委員会委員長
六星同窓会会長
大藏 捷直

本日、ここに石川県知事名代竹中博康副知事をはじめ多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、石川県立翠星高等学校創立百四十周年記念式典を盛大に挙行できますことは、記念事業委員会並びに同窓会にとりまして大きな喜びでございます。

さて、本校は明治九年十一月に、金沢市柿木島にありました「石川県勸業場」に農学科が設置されたのが創立の起源であります。明治五年に学制がしかれて間もない時期に農業教育の重要性とその理想を追い求めて農学科を創設された先覚者に対し、深甚なる敬意と謝意を表するものです。その翌年一月に学校としての規模がほぼ整ったので、農学科を分立して石川県農業講習所が創設されました。

そして、明治十八年に県議会において加賀および能登に各一校の農学校を設立することが議決され、まず能登地区に開校することになり、農業講習所を石川県農学校と改称し、広大な土地が確保された志賀町火打谷に移転しました。明治二十九年に加賀地区に移転することになり小松町小馬出町に移り、教育内容の充実が図られました。明治三十四年に文部省令により石川県立農学校に改められました。明治三十五年には県下有数の農業地域である松任町の馬場町に移転しました。

大正十五年に石川県立松任農学校に改称し、昭和二十三年の学制改革により、松任農学校と松任高等女学校が合併して、総合制の石川県立松任高等学校に改編されました。昭和二十八年に地域の強い要望に対応して、石川県立松任農業高等学校として再出発しました。昭和三十九年には実習地の確保などを図るため、馬場町から現在の三浦町に移転しました。

さらに、平成十二年には設置学科や教育内容を検討し、総合グリーン科学科一学科に改編して、校名も石川県立翠星高等学校に改称され現在に至っております。

このように、長い歴史の中で幾多の変遷がありましたが、今改めて農業教育の大きな使命と歴史の重さをひしひしと感じているところで

これまで、二、〇〇〇有余名の有為な人材を輩出してきましたが、先輩諸氏は、農業界はもとより各界において多くの功績を残されました。そして、今もまた、同窓生の皆様が様々な分野でご活躍されておられることに対して深く敬意を表します。

在校生の皆さんは、「食」「農」「環境」の三つのコースの中から学びたい専門分野と科目を選択し学習していますが、農業・農村の役割は私たちが生きていくために必要な食料の生産はもとより国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、景観の形成、文化の伝承など多面的機能を持つており、その役割は時代がどのように進展しても不変であります。また、農業教育を通して培われる生命に対する尊敬の気持ちや思いや

りの心、自然を愛する心などはどんなに社会が変化しても時代を超えて変わらない価値あるものであり、これからの社会において益々重要なものとなるでしょう。在校生にはそのような心を大切にして、自己研鑽に励むとともに本校の歴史と伝統の上に、さらに新しい伝統を築き上げ、後輩たちへと繋いでいくことを期待しています。

最後になりますが、記念事業の実施に際し、ご協力とご支援を賜りました教職員、保護者、同窓生並びに関係各位に心から感謝申し上げますとともに、本校の更なる発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げます、ご挨拶いたします。

生徒代表の言葉

生徒代表 沢辺 小晴

本日は、お忙しい中、御来賓の方々をはじめ諸先輩方にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今年度ももちまして、石川県立翠星高等学校は、創立百四十周年を迎えることとなりました。百四十周年という歴史の節目の場に立てることを、在校生一同、心より喜ばしく思っております。

さて、本校は明治九年、石川県勸業所農業科として設立され、その後何度か改編改称し、平成十二年に校名が現在の翠星高等学校となりました。しかし、諸先輩方にとっては「松農」の方が親しみやすいのではないのでしょうか。

本校は、これまで県内の政財界に幾多の人材を輩出してきました。また、農業高校として農業人の育

成にも貢献してまいりました。しかし、現在農業はたくさんさんの問題を抱えています。そのような中、本校は「食」と「農」と「環境」をテーマに三つのコースに分かれ、それぞれの生徒が専門教科の勉強に励んでいます。

部活動では、今年、野球部が春季大会でシールド校を破り三回戦に進出しました。また、陸上部も高校総体で北信越大会に出場するなど活躍しています。他の部もこれを励みに日々の練習に取り組み、着実に力をつけています。

また、食品科学研究会が、先の農業クラブ北信越大会において、二つのプロジェクト発表部門で最優秀賞に輝き、全国大会への出場を決めました。それ以外の研究会も、里山や地域環境保全など、さまざまな活動を通じ、地域社会に貢献しています。

授業では、それぞれの専門分野で、実験・実習などの実践的、体験的学習も含めて、食糧生産や環境の保全・創造に関する基礎的・基本的な知識や技術を広く学ぶことで、社会に役立つ人間に、また、新しい時代に向けた農業人になるために、日々の勉強に励んでいます。

このように翠星高等学校と校名が変わっても、私たちが在校生は、諸先輩方から受け継いだ歴史と伝統という素晴らしいバトンを次の人たちに渡していきたいと思っております。

最後に、私たちが在校生は、多くの先輩方と同様、社会に貢献できる人間として本校を巣立つていくことを、諸先輩方や地域の方々にお約束し、生徒代表の言葉といたします。

支部だより

関東支部

昭和三十三年卒

小林 好晴

関東支部創立二十周年目の今年
は、通例の「気軽に一杯の会」と「散
歩の会」を実施するほかに、「記念
のしおり」の発行と新会員の発掘
を目指し、出発しました。

年度を総括する記念の総会は
十一月十二日に山崎校長先生と寺
田先生をお迎えして、会員一人名
で開催させて頂きました。なお、
参加者へは生徒作品の「クッキー」
と「ジャム」をお配りしました。

総会の重点課題は支部の維持・
発展です。これまでの規定に『本
会の趣旨に賛同する六星同窓会に
係りのある個人』の一文を追加し
ました。卒業生が関東地域に定着
しない現状では、門戸を開いて行
くことも必要と感じています。次
回の総会を目指して会員の皆様と
頑張っ参ります。



関西支部

昭和二十九年卒

北本 幸雄

創立百四十周年記念大会に参
加いたしました。秋分の日に催行
された記念行事、式典、感謝状贈
呈、場所を替えての講演会、祝賀
会等々誠に盛大なものでした。そ
の後ホテルで、関東、東海支部の
方々とお話しすることが出来、そ
れぞれの支部の現状、そして将来
等を語り合う有意義なものとなり
ました。さてわが支部の二十八
年度の総会を十月十五日に会場を南
区の「和架」から、北区の「ホテル
グランヴィア内」の「なにわ食彩し
ずく」で、母校より鷺沢教頭、寺田
教諭の御参加をいただき開催する
ことが出来ました。教頭先生より
母校の近況を頂戴し、松永幹事よ
り二十八年度の事業、決算報告の
発表とそれ等についての審議、質
疑応答の後承認を得て可決致しま
した。当支部としても関東、東海
に負けずに頑張りたいと心新たに
思います。



東海支部

昭和三十六年卒

江川 久

平成二十八年度東海支部の総会
が五月二十八日(土)、ホテルサン
ルートプラザ名古屋にて十一時よ
り開催されました。
ご来賓として、中部石川県人会
副会長 川端敏明様、石川県立翠
星高等学校校長 山崎恵様、事務
局の寺田修一様のご出席を賜りま
した。

ご来賓の皆様にはご祝辞の言葉
や学校の現状についてのご説明を
頂き、今後とも支部発展のため微
力ながら努力いたす所存です。
さて、東海地区では、去る十二
月十九日にリニア中央新幹線名
古屋駅の起工式が始まりました。

十一年後の開業にむけての地下
三〇メートルでの大変な難工事だ
そうです。
また、統計によりますと主要八
都市での魅力度が名古屋が最下位
とのことですが、平成二十九年四
月一日に世界で八番目でわが国で
は初めての、レゴランド・ジャパ
ンが名古屋の金城ふ頭にて開業し
ます。

関東のデイズニerland・関西
のUSJと並んで全国から多く
の人々を集めて、大いに賑わうん
じゃないかと期待しております。
今後とも愛知の益々の発展を望
みたいものです。

金沢支部

昭和四十八年卒

窪 正之

平成二十八年度の総会は、出席
者三一名で七月二日に母校より山
崎学校長と寺田先生のご臨席を賜
り、三一名で金沢都ホテルに於い
て開催されました。

開会にあたり大蔵捷直会長兼金
沢支部長のご挨拶を頂き山崎学校
長には祝辞を賜り、母校の現況報
告と創立から変革の地を探索され
たお話を「羽咋郡火打谷」「小松市
子馬出」の写真を拝見し皆さん熱
心に聞き入りました。

次に吉田幹事長より過年度の事
業、決算の報告があり、平野監事
より監査報告が行われ、それぞれ
満場一致で承認可決されました。
総会後の講演会には昭和四十四
年農業学科卒の小林正治氏を講師
に迎え、講演を賜りました。小林
正治氏は平成二十四年に第四十一

回日本農業賞大賞ならびに第
五十一回農林水産祭天皇杯を受章
されています。

小林氏は稲作と他品種な野菜栽
培を組み合わせて営むことが就農
への夢とし、その実現のため労働
力配分の平準化と効率化にスイカ
栽培の省力手法や稲作において
育苗技術に創意工夫を重ね、平成
十三年に全面導入にこぎ着けた
「育苗全量施肥法」(平成十九年実
用新案権取得)により経営耕地面
積は三四ha(平成二十二年)にま
で拡大できたと話され、現在は息
子夫婦も経営参画しており、次世
代への承継も確実な状況となつて
います。

その後の懇親会も盛会のうちに
終了となり、来年も「六星」の旗の
下で会いましょうと約束し、参会
しました。

事務局だより

〔本部〕

〔会計監査〕

五月二十一日(土)翠星高校視聴覚室

〔理事会・総会〕

六月十一日(土)グランドホテル白山

〔支部総会〕

〔金沢支部総会〕

七月二日(土)金沢都ホテル

山崎校長 寺田教諭出席

〔関東支部総会〕

十一月十二日(土)主婦会館プラザエフ

山崎校長 寺田教諭出席

〔関西支部総会〕

十月十五日(土)ホテルグランヴィア大阪

鷺沢教頭 寺田教諭出席

〔東海支部〕ホテルサンルートプラ

ザ名古屋

五月二十八日(土)

山崎校長

寺田教諭出席

